

ニヤーヤ学派の討論思想 : 仏教徒との論争史の解明

須藤, 龍真

<https://hdl.handle.net/2324/4059957>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (文学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏 名	須藤 龍真			
論 文 名	ニヤーヤ学派の討論思想 —仏教徒との論争史の解明—			
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	片岡 啓
	副 査	九州大学	教授	岡野 潔
	副 査	九州大学	准教授	吉原 雅子
	副 査	九州大学	准教授	藤井 倫明

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

上記の論文は、紀元後 9 世紀頃のカシミールの学匠であるバツタ・ジャヤンタの大著『ニヤーヤマンジャリー』の「討論章」を取り上げ、原典校訂・和訳・各概念史研究を行ったものである。研究は五部に分かれる。

序論において須藤氏は、討論章の位置付けを明らかにすべく、ニヤーヤ学派の論述対象である十六原理について整理し、先行研究を踏まえて十全な調査を行う。資料状況を明らかにした後、先行出版の不備を補うべく、写本に基づき新たな再校訂本を須藤氏は提供する。原典批判にあたって須藤氏が参照したサンスクリット写本は六写本。須藤氏は、討論章のみならず、『ニヤーヤマンジャリー』の全章にわたって、関連する研究を各章ごとに整理する。以上を踏まえたうえで、討論章の研究状況を浮き彫りにし、その研究必要性を訴える。

第 II 部の本論では、『ニヤーヤマンジャリー』の討論章で取り上げられる議論学の諸概念について、関連する様々な問題を須藤氏は整理する。討論術で主題とされる論議・論諍・論詰・曲解・詭弁的論駁・敗北の根拠について、須藤氏は、その概念の定義を明らかにすると共に、史的な変遷にも目配りをする。さらに須藤氏は、討論術をめぐるジャヤンタの議論背景を明らかにし、論争史を掘り起こしていく。先行するニヤーヤ諸論師のみでなく、後続する諸論師にも目配りしながら、ジャヤンタの思想史上の位置を明らかにする。また、ジャヤンタによる議論の思想的な価値も同時に明らかにする。

伝統の長い討論術に関連する諸概念を整理するにあたっては、史的な変遷を踏まえる必要がある。須藤氏は、いずれの概念についても、ニヤーヤ学の伝統を明らかにした上でジャヤンタの言説を定位・評価しており、整理された概念史を読者に提供する。

第 IV 部の校訂テキストにおいて須藤氏は、『ニヤーヤマンジャリー』に関する現在の研究水準を踏まえて、入念に写本の異読調査から行う。シャーラダー写本とマラヤーラム写本の異読情報は特に重要であり、本校訂テキストにおいても、随所に貴重な本文訂正が見られる。第 V 部は、以上の校訂テキストを踏まえた和訳である。

大部の本論文であるが、巻頭には詳細な目次が付されており、読者は迷うことがない。全体の構成も分かりやすく、読者が容易に各議論の位置付けを視認できるよう配慮されている。須藤氏は、

いずれの概念についても丁寧に概念史を解きほぐし、一つの見通しを得ている。原典と和訳は、今後、長く使われる基礎資料となるはずである。本学の博士論文として十二分の出来であり、博士号を認めるに値する論文と判断する。